

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572100578		
法人名	有限会社 メープルウェルフェアサービス		
事業所名	グループホーム ひまわり	ユニット名	2階
所在地	延岡市北川町川内名8307		
自己評価作成日	平成28年9月10日	評価結果市町村受理日	平成28年11月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokansaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kanitrue&liyosvoCd=4572100578-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成28年10月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、入居者の方が楽しみを持って笑顔で過ごしていただけるよう、本人と家族の希望により、柔軟なサービスを提供しております。「同窓会に出席したい」と言う方に職員が1名同行し、会場の外で何か困ったことがあった時のために待機をしたり、「お盆を家で過ごしたい」という方に、入居者の方が安全に自宅で過ごせるよう、職員が自宅に出向き自宅でのトイレ介助方法や移動方法をご家族にお伝えするなど、「施設に入っても色々なことができる」を実現するようにしている。また、認知症介護指導者としての活動や認知症の人と家族の会の世話人としての活動もしており、地域への認知症に関する啓発活動を活発に行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「あなたのゆつくりを笑顔で待ちます。あなたをもっとよく知りたいので、知識や技術を身につけてあなたから学ばせていただきます」という理念を作成し、実践に努めている。地域や行政との関係づくりに努め、管理者は、認知症サポーター養成講座や介護講座の講師を務め、認知症の人と家族の会の世話人として認知症に対する啓発活動を積極的に行っている。運営者は職員の資格取得やホーム内・外の研修参加に理解があり、職員の資質の向上を支援している。利用者の入・退去が複数あり、帰宅願望者や不穏状態の利用者への対応に追われたが、個別に対応し、現在は利用者の状況も落ち着いてきている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	2階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	[理念]という言葉そのものの意味と意義についての勉強会を行い、現状理念が実践できているか職員に自己評価してもらった。完全ではないが職員の協力を得て、より良くなってきている。	全職員で認知症ケアに必要なことをKJ法(問題解決技法)を用いて検討し、理念を作成している。認知症介護実践者研修受講者が理念についての職員の自己評価を実施するなど努力しているが、理念が実践に十分つながっているとはいえない。	勉強会や話し合いを重ねて、理念を共有し実践につなげることを期待したい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の住宅が少ないが、催しものに招いたり、近隣の方も対象とした勉強会を行うことで出来得る限りの交流を働きかけている。	管理者は認知症サポーター養成講座や介護講座の講師、他のグループホームの運営推進員を務めている。毎年、地域の人に参加を呼びかけ、納涼祭を実施している。中学生の職場体験実習を受け入れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々を対象とした認知症サポーター養成講座や介護に関する勉強会を開催し、地域の人々に認知症の理解や協力を呼びかけている。	/		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の代表の方にも運営推進委員会に出席していただき、他の委員の方同様に意見を頂き、可能な限り、取り入れる様にしている。	車椅子の利用者が多い時に、委員から車椅子上でもできる体操の資料の提供を受けたり、求人のアドバイスをもらうなどしている。ホーム側が出席者に相談できる関係を構築している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会以外にも電話連絡等も頻繁に行い、様々な事例に関する報告・連絡・相談を行っている。	本庁、支所との連携が密に取れている。地域ケア会議でも議題を提供し、検討したり、相談できる関係を構築している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒のリスクが高い入居者様への見守りは注意して行い、なるだけ一対一で付き添う様にしている。職員の数が少ない時間帯はやむを得ず、玄関を施錠している。	施錠の弊害について十分理解し、1対1の対応に努めているが、職員配置によりやむを得ず一時的に施錠をすることがある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修・ミーティングを繰り返し行い、職員に自己評価を月一回提出してもらい、虐待に対する意識を常にもってもらうように働きかけている。	/		

自己	外部	項目	自己評価	2階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で日常生活支援事業や成年後見制度を学習・理解し、必要な入居者様への活用を支援している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約共に家族の方に十分な理解を得られ、同意していただける様に丁寧で詳細な説明を行える様に、管理者も契約書の内容を再度、確認、熟知している。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様・家族の方共に職員・管理者と密にコミュニケーション、連絡を取り、意見・要望が言い易い様な環境作りに努めている。		家族から玄関のインターフォン設置の要望があり、現在準備中である。対応が困難な家族には管理者が対応し、意見や要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員一人一人が積極的に建設的な意見を忌憚なく言える様にミーティングや面談の時間を設けている。		副施設長が朝礼に出席しており、意見に対する反応が早い。ステップアップのための配置替えの希望にも早く対応している。希望休や有給休暇、備品の交換など、職員の意見を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員一人一人との面談や全体集会等を行ったり、職場環境の整備に積極的に取り組み、職員のモチベーションの向上に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員に外部の研修への参加を積極的に促したり、また施設に外部の講師を招きM講習会を開く等、職員のスキルの向上を計画的に進めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の研修・見学や情報交換等を行い、互いのサービスの質の向上に努めている。また介護福祉士会に事業所単位で加盟している。			

自己	外部	項目	自己評価	2階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様との積極的なコミュニケーションで、不安を取り除き、出来得る限りの要望が叶えられる様に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の悩みや心配事を事業所側に伝え易い様に良好な関係を築く事に努めている。また事務所にご意見箱を設置している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の要望、本人の意向や状態を確認し、他事業所のサービスを利用の勧めも含めた助言を行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な入居者様には職員が積極的に声をかけて、共に家事等を行っている。また裁縫が得意な方や農業をされていた方等からは職員側が習ったり、助言をいただいている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員が気軽に対話できる機会や雰囲気を作り、また催し物の際には家族の参加・協力を積極的に呼びかけている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・家族との面会の時間を大切に考え、買い物や美容院など本人が望む外出の時間を定期的に設けている。	同窓会の幹事と連携し、利用者の同行支援を行うこともある。また、意思疎通が困難な利用者とふるさと訪問を行い、一緒に食事をし、親族と穏やかな時間を共有できるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のレクリエーションや催し物を通じて、利用者様同士の交流のきっかけ作りに努め、食事や日常過ごしでの席順等も考える等して、関係を形成する支援を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	2階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も利用者様の新しい入所先を訪ねたり、電話連絡を取り、その後の様子を確認している。家族の相談も受けている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な利用者様からの要望は出来得る限り、受け入れている。困難な方場合は生活歴や家族のお話、観察等から検討している。		困難な場合でも、これまでの経緯から長期に入居している利用者とのコミュニケーションは図れており、仕草や行動によりゆっくり話しかけたり、複数の選択肢を提示して緩やかに対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様や家族との対話の時間、機会を設け、「私の周りシート」を活用する等、その人の人生を把握、理解、職員間での情報の共有に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様各々の心地よい時間の過ごし方やADLを理解し、その方に合った生活環境を把握する様に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録に基づいたカンファレンスやミーティングを基に、本人や家族、職員の意見を反映させた介護計画を作成している。		職員の意見を介護計画に反映している。担当制になっており、介護計画とケアの連動が見られるようになってきたが、個々の利用者の介護計画を全職員で共有できていない面がある。	個別の介護計画について職員が共有できるように周知し、実践につなげることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録と申し送りの徹底に努め、職員全員が情報を共有し、介護計画の作成と実践に反映される様に活用している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の時々ニーズに応じたサービスを提供する為に、職員の配置や一日のメニューを柔軟に変更することも可能な様に環境を整えている。			

宮崎県延岡市北川町 グループホームひまわり(2階)

自己	外部	項目	自己評価	2階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	催し物の際には地域の方や高校にボランティアをお願いしたり、民生委員との情報共有、地域公民館の利用等を行っている。地元の祭りなどにも参加している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様が以前からのかかりつけ医の診断を受けられる様、職員が同行したり、家族との連絡を密にとる等の支援を行っている。	協力医の往診が月2回あり、かかりつけ医や専門医の受診は看護師が支援し、適切な医療支援を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常駐の看護職と介護職との連携は取られており、利用者様の日々の状況の変化に適応できている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連絡・提携・情報交換が常に取れる体制が整えられている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	容態が重度化した場合の方針に関しては家族や(可能ならば)本人と十分に話し合い、意思に沿った支援を行える様に取り組んでいる。	入居時に指針について説明し、覚書を交わしている。また、終末期に向けた意志の再確認も行っている。ホームでできる終末期のケアを可能な限り提供している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルの徹底や、AEDや救命法の研修を定期的に行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域や職員の連絡網が作成されており、消防署との連絡ラインは確保されており、署との協力の下、定期的避難訓練、防災訓練が行われ、署で行われる研修に職員代表が参加している。	会社として水、米、魚など1週間分の備蓄をしている。夜間の台風災害に対しては、会社の敷地内にあるホームの管理者は敷地内宿泊所に待機する体制となっている。夜間想定避難訓練も予定している。		

自己	外部	項目	自己評価	2階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士でも言葉遣いや態度が良くない場合は互いに注意をしあったり、ミーティングや研修、自己評価を定期的に行い、利用者様への言葉かけの改善を図っている。		敬語で話しかけていても、思いのこもっていない言葉かけになっていることもある。	接遇研修を実施するなど、一人ひとりの尊重とプライバシーの確保に努めるよう取り組むことを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	以前は職員の業務が優先されがちであったが、何度かのミーティングを経て、現在は利用者様とのコミュニケーションの時間を設け、その思いを汲み取れる様努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人との対話や観察を通じ、その人らしい一日の過ごし方を共に考え、実践できる様に努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な方は機会を設け、美容院や理髪店に同行したり、買い物に出かけ、衣類等を購入している。要望に応じて、毛染めや整髪を行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方は限られているが、配膳・下膳、後片付け等は利用者様と職員が協力して行っている。		利用者の食事中に、職員は洗い物などの片付けや記録をしており、検食者だけが利用者と一緒に食事をしている。下膳などできる利用者に対しても職員が行うこともある。	職員も利用者と一緒に食事を楽しみ、また、利用者の残存能力を大切に考え、理念の再確認をするよう期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、かかった時間等を各々記録、疾患やアレルギー等の制限や量の調整等の把握、必要な方は刻みやミキサー食、おかゆ等に加工し、提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の状態に応じた口腔ケアを食後に行っている。自分で歯磨きできる方には誘導・声かけ・見守りで対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	2階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の時々の体や心の状況に応じて介助を見守りに切り替える等柔軟に対応している。自分で出来る事はなるべく自分でしてもらうようにしている。		排せつチェック表を活用し、トイレでの排せつを支援している。常に話し合いながら紙おむつからリハビリパンツ、布パンツ使用になるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食前の口腔体操や午前午後にレクリエーションを兼ねた軽い体操を行っている。水分や繊維質の補充を気を付けている。利用者様の毎日の排泄のスケールをチェックし、必要に応じて薬も使用している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前に丁寧な声かけを行い、利用者様の同意を得てから浴場に誘導しているが、業務の都合で入浴を中止してしまう事もある。		原則、土曜日は外出を優先し、入浴日とはなっていないが、利用者の状況により柔軟に対応している。1日3~4名が入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝の声かけは丁寧に行い、基本的には利用者様の希望する時間に入床してもらっている。穏やかな睡眠に就けるように巡回時の布団かけや体位交換を行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬・飲み忘れのない様に複数の職員で声出し確認を行っている。薬の用法・副作用等に関しては担当者以外の職員全員が理解しているとは言い難く、改善が必要。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様と花を育てたり、畑の草むしりをしたり、縫い物をお願いしたり、各々が生きがいを持つ様に環境を整備している。施設周辺の散歩を日課としている利用者様もいる。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物・外食・ドライブ等の時間を多く取る様に人員や車の手配を行っている。		広い敷地内を日常的に散歩している。利用者は管理者が用事で外出する際に同行している。道の駅へのドライブや受診時の外食などを支援している。家族の協力で外出支援も行っている。土曜日には「ドリームプラン」という外出を企画し、支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	2階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在本人で金銭の管理を行っている利用者様は一人だけだが、買い物や外食の際にはそれ以外の方にもなるべくご自分で品物やメニューを出来得る限り選んでもらっている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で電話をかけたり、手紙を書く支援を行っている。手紙の代筆や読み聞かせも行っている。携帯電話を所有している利用者様もいる。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾り付けを利用者様と職員とで行っている。職員が業務に携わっている際には不快な物音に注意するなど配慮している。	利用者の身長に配慮して、高さを低くした椅子も配置している。ソファの形態も同一ではなく、利用者が選択できるようになっている。リビングの一角が対面式の台所になっており、生活感や季節を感じることができる造りとなっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で利用者様が一人になれる空間は無いが、入居者様一人ひとりが思い思いの位置に座れる様にしたり、事務所で個別に対応する等配慮している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にはなるべく利用者様が自宅で愛用していた家具等を持ち込んでもらったり、家族の写真を飾ったり、居心地の良い居室作りを心がけている。	ベッド以外は持ち込みの品になっており、たんすの上に写真を飾り、毎日お茶と水をあげる利用者もいる。利用者の状況に応じて居心地よく生活できるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様各々のその時の状況に応じた模様替えを行っている。施設の建物の修繕や改築等も必要に応じて行っている。			